

研究評価委員会
「先進操縦システム等研究開発」(中間評価)分科会
議事要旨

日 時：平成22年9月8日(水) 13:30~17:30

場 所：名古屋国際会議場 133・134会議室(1号館3階)

出席者(敬称略、順不同)

<分科会委員>

分科会長	稲垣 敏之	筑波大学 大学院システム情報工学研究科	リスク工学 専攻 教授
分科会長代理	李家 賢一	東京大学 大学院工学系研究科	航空宇宙工学専攻 教授
委員	遠藤 信二	法政大学 理工学部 機械工学科	航空操縦学専修 教授
	十亀 洋	(財)航空輸送技術研究センター 技術部	主任研究員
	長岡 栄	(独)電子航法研究所 契約研究員	東京海洋大学連携大 学院客員教授
	藤石 金彌		航空ジャーナリスト

<オブザーバー>

苦瓜 作 METI 製造産業局 航空機武器宇宙産業 航空機開発係長

<推進者>

久木田 正次	NEDO	機械システム部	部長
松本 秀茂	NEDO	機械システム部	主査
松浦 一哲	NEDO	機械システム部	主査
小佐々 敏生	NEDO	機械システム部	主査
佐藤 允昭	NEDO	機械システム部	職員

<実施者>

藤本 隆史	三菱航空機(株)	機体設計部	常務執行役員/プロジェクトマネージャー /部長
中野 雅仁	三菱航空機(株)	装備設計部	グループリーダー
山口 恭弘	三菱航空機(株)	装備設計部	主席
高木 秀治	三菱航空機(株)	装備設計部	主席

近藤 信洋 三菱航空機(株) 装備設計部 主席
田浦 伸一郎 三菱航空機(株) 技術管理部 グループリーダー
四井 健太 三菱航空機(株) 技術管理部 主任
山本 昭彦 三菱航空機(株) 業務部 部長
岡嶋 伸明 三菱航空機(株) 業務部 グループリーダー
萩原 晟 三菱航空機(株) 営業部

<企画調整>

村瀬 智子 NEDO 総務企画部 課長代理

<事務局>

竹下 満 NEDO 評価部 部長
吉崎 真由美 NEDO 評価部 主査
森山 英重 NEDO 評価部 主査

一般傍聴者 0名

議事次第

(公開の部)

1. 開会、分科会の設置、資料の確認
2. 分科会の公開について
3. 評価の実施方法
4. 評価報告書の構成について
5. プロジェクトの概要説明

<休憩>

(非公開の部)

6. プロジェクトの詳細説明
7. 全体を通しての質疑

(公開の部)

8. まとめ・講評
9. 今後の予定、その他
10. 閉会

議事要旨

(公開の部)

1. 開会、分科会の設置、資料の確認
 - ・研究評価委員会分科会の設置・成立について(事務局より資料 1-1、1-2 に基づき説明)

- ・ 稲垣分科会長挨拶
 - ・ 出席者（委員、推進者、実施者、事務局）の紹介
 - ・ 配布資料の確認
2. 分科会の公開について
- 事務局より資料 2-1、2-2 に基づき説明し、議題 6. 「プロジェクトの詳細説明」及び議題 7. 「全体を通しての質疑」を非公開とすることが了承された。
3. 4. 評価の実施方法と評価報告書の構成について
- 事務局より資料 3-1～3-5 及び資料 4 に基づき評価の実施方法と評価報告書の構成について説明し、事務局案通り了承された。
5. プロジェクトの概要説明
- 推進者より資料 5-1 に基づき、事業の位置付け・必要性、研究開発マネジメント、研究開発成果、実用化の見通しについての説明が行われた後、質疑応答が行われた。
- 主な質疑内容
- ・ 研究開発対象を市場ニーズの高い操縦システムに設定とあるが、その市場ニーズはどのような範囲のものかとの質問があり、輸送機器全般に関してニーズが高いと想定しているとの回答があった。
 - ・ 輸送機器のあるモデルを作ると、一般的にはモデルチェンジして大型化したりするが、開発しているシステムはその辺まで視野に入れて設計しようとしているのか。そうすれば成果、波及効果が大きいと思うが、その辺はいかがかとの質問があり、これは事業の規模が関連して来るので、技術的な内容を含めて非公開の場で説明するとの回答があった。
 - ・ 研究開発進捗管理のところの技術報告会はどのような方々が集まり、どのような工夫をしてやっているのかとの質問があり、技術報告会は NEDO の推進部と推進管理の部署が実施者を訪問し、実施者の実際の研究進捗の状況に関する報告を受けるもので、それと同時に報告を受けた内容の現場確認を実施し、進捗度合いを実地で確認している。その場での討議を含めて、実用化、知財戦略等に関する議論を行い、プロジェクトのマネジメントを実施しているとの回答があった。
 - ・ 他の分野への波及効果が高いというが、放っておけばそのまま使ってもらえるのか、それとも NEDO は積極的に他の分野に適用されるように動いて行くのかとの質問があり、現在は実証までの固有の技術開発を重点的に実施しており、その開発が出来た段階で、波及をどのようにして行くかを具体的に考えて行くことになるかと思うが、現時点では未だ検討途中であるとの回答があった。

(非公開の部)

6. プロジェクトの詳細説明

省略

7. 全体を通しての質疑

省略

(公開の部)

8. まとめ・講評

人と先進操縦システムをどうやって調和させるかは非常に重要であり、ヒューマンファクターの観点からは非常にすばらしい取り組みである等の講評があった。

9. 今後の予定、その他

事務局より資料7に基づいて説明し、今後の予定が了承された。

10. 閉会

事務局の竹下部長からの挨拶の後、閉会した。

配布資料

資料 1-1	研究評価委員会分科会の設置について
資料 1-2	NEDO 技術委員・技術委員会等規程
資料 2-1	研究評価委員会分科会の公開について
資料 2-2	研究評価委員会関係の公開について
資料 2-3	研究評価委員会分科会における秘密情報の守秘について
資料 2-4	研究評価委員会分科会における非公開資料の取り扱いについて
資料 3-1	NEDO における研究評価について
資料 3-2	技術評価実施規程
資料 3-3	評価項目・評価基準
資料 3-4	評点法の実施について
資料 3-5	評価コメント及び評点票
資料 4	評価報告書の構成について
資料 5-1	事業原簿（公開）
資料 5-2	事業原簿（非公開）
資料 5-3	プロジェクトの概要説明資料（公開）
資料 6	プロジェクトの詳細説明資料（非公開）
資料 6-1	プロジェクトの詳細説明資料（非公開）研究開発項目①
資料 6-2	プロジェクトの詳細説明資料（非公開）研究開発項目②
資料 7	今後の予定

以上